

## 実施報告

【日 時】2015（令和7）11月16日（日）晴れ

【観察場所】京都府宇治市紅斉「仏徳山周辺」

【集 合】午前10時 京阪宇治駅前

【行 程】京阪宇治駅～宇治神社～宇治上神社～仏徳山展望台～朝日山山頂～興聖寺～宇治川中之島、  
13時半解散

【講 師】府岳連自然保護委員会（植物担当委員、地歴担当委員）

【参加者】一般参加者 15名、傘下山岳会員 32名、自然保護委員 15名 （総計 62名）

【概 要】 よく晴れた絶好の秋晴れになった。集合時の注意では、数日前のクマ目撃情報に対して、警察をはじめ行政機関では立ち入り禁止などの特別の対応はしていない事、個人団体の自己責任で入山すること、不安を感じる方は自由に中止できることや、途中で一人での勝手な行動を控えることなどが確認された。寺社では観光客や七五三参りの客など大勢の混雑の中での地歴の説明会となった。仏徳山では、ツブラジイの純林のカシイ照葉樹林の観察と、落葉樹の紅葉観察を行った。展望台からは眼下の平等院や生駒山系、摂津方面の街並みまで遠望を楽しんだ。朝日山山頂での昼食休憩後、興聖寺を経て宇治川中之島にて解散の運びとなった。

【全体写真】 仏徳山展望台



朝日山山頂



## 【地歴説明の概要】

宇治神社と宇治上神社は、宇治川の東岸に並んで鎮座する姉妹神社で、どちらも古くから「菟道稚郎子（うじのわきいらつこ）」を主祭神として祀っています。菟道稚郎子は仁徳天皇の異母弟と伝えられ、学問に優れた皇子として知られ、宇治の地で最期を迎えたとされる人物です。この皇子を偲んで創建されたのが両社の起源とされます。宇治神社は「下社」、宇治上神社は「上社」と呼ばれ、古代には一体の神社として扱われていました。のちに上・下に分かれたとされ、現在も両社を合わせて「宇治離宮明神」と呼ぶ古称が伝わっています。宇治神社の社殿は江戸時代の再建ですが、境内は落ち着いた森に囲まれ、参道には「みかえり兔」の像が置かれ、伝説にまつわる縁起の良い神社として親しまれています。一方、宇治上神社は現存する神社建築として特に貴重です。とくに本殿は日本最古の神社建築（鎌倉時代以前の形式を残す平安後



期の建物」とされ、1994年には平等院とともに世界遺産「古都京都の文化財」に登録されました。本殿は三つの社殿が横に並ぶ「桁行三間」の独特の形式で、平安貴族文化の簡素で清らかな趣を今に伝えています。また拝殿も鎌倉時代の建造と考えられ、簡素ながら気品ある佇まいが特徴です。両社の周辺にはかつて離宮が置かれ、平安時代の貴族たちが行楽や儀式のために訪れたとされます。宇治の豊かな自然と静寂に包まれた地は、古くから神聖な領域と考えられてきました。今日、宇治神社・宇治上神社は、学業成就・厄除けの社として親しまれ、宇治川の清流や古刹に囲まれた歴史的空間として、多

くの参拝者が訪れています。

その後、源氏物語所縁の「さわらびの道」を辿り「総角の古墳」辺りから、登山道に入り、展望台にて小休憩をしました。天気は快晴で宇治川の対岸には平等院、橋姫神社、県神社が見られ一同大満足でした。一通り三つの寺社の案内を終えて、暫く歩いた所で「朝日焼き」について、小堀遠州の7窯の一つである事、バーナードリーチとの交流などについて、お話ししてから朝日山頂上で、昼食タイム。



午後興聖寺まで下山。興聖寺は、道元が1233年に九条道家の寄進を受けて創建した曹洞宗最初期の寺院です。道元はのちに越前へ移るため一時期で移転しましたが、宇治の地は曹洞宗の起源として重視され続けました。現在の興聖寺は江戸時代の1645年、淀城主・永井尚政によって再興されたもので、宇治川沿いの静かな山裾に位置します。「関ヶ原の戦い」に向かう石田三成を総大将とした大阪方の軍勢を足止めする為、再三に渉る降伏勧告を跳ね付けて淀城で討ち死にした鳥居本忠率いる「三河武士」たちの血天井がある事でも知られています。参道の「琴坂」は、沢の音が琴の調べに似ることから名付けられ、四季



折々の景観が美しく境内には法堂、仏殿、開山堂などが整い、禅宗寺院らしい簡素で端正な伽藍構成を保っています。又、琴坂は「白馬童子」で山城新伍が白馬で駆け上がった事でも有名です。宇治川まで下り、朝霧橋を渡り西大寺の僧、叡尊の建立した「十三重の塔」や木曾義仲追討の「宇治川の先陣争い」について、すこし解説し本日の案内を終了しました。





## 【植物観察概要】

本日の観察のポイントは、①赤い実をつけた樹木を探す ②似たものどうしの樹々 ③宇治名木の樹々 ④分布上意外な樹々 の観察に焦点を当て、シイカシの照葉樹林（特にツブラジイの純林）の環境を見ることに重点を置いた。



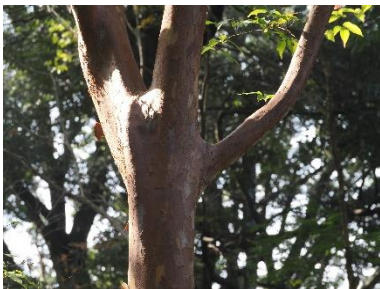
1. 宇治上神社のケヤキ（宇治名木）…ムクノキとそっくり。葉の鋸歯はケヤキで丸く、ムクで直線的。葉の根元の側脈はムクで3分枝する。ムクの実は食可。ケヤキの樹形は箒を逆立てた形。ムクノキの樹皮は縦にはがれやすい。

2. サンシュユの実…食可、甘酸っぱい。漢方薬に利用される。胃腸、強壮薬。



3. ウメドキの実…モチノキ科。葉がウメの葉に似る。かじると甘酸っぱかった。

そのほか、カナメモチやマンリョウの赤い実が目立った。仏徳山の登山口にはシイノキの宇治名木があった。



4. ヒメシャラ…ツバキ科、神奈川～近畿、四国、九州。山地の林内。標高の低い仏徳山に何故？

4本ほど立っている。稀な木である。

展望台付近には、落葉のハリエンジュの木が数本。



5. ツブラジイの純林…一本一本がせめぎ合って、空（光）を分けている。林床は光が届かないので、灌木や草が育たない。わずかに光が当たるところに、ヤマモモやヤマハゼが生えている。

シャシャンボ…ツツジ科。実は食べられる。花はネジキに似る。関東～沖縄の暖温帯、亜熱帯に自生。この付近ではまれ。

仏徳山と朝日山の鞍部にフェンスに囲まれた一角があり、アカメガシワとカラスザンショウが生えている。ともに、荒地にいち早く侵入して林をつくる。本来はカエデの木を植えたのであろうが、勢いに負けて消えかかっている。

朝日山の山頂はソヨゴの赤い実がなっている。

興聖寺の生け垣はサンゴジュ。赤い実がほとんど落ちていた。駐車場には大木のナナミノキが生え、赤い実がなっていた。

そこから、宇治川沿いに出て、クスノキの大木とトウカエデの名木、黄色く紅葉したイチョウを観察。

中之島に出て、川岸のノゲイトウの群落を観察して終了。



ノゲイトウ群落…熱帯地方に広く分布し、日本では中部以南、沖縄にかけて帰化している。ケイトウは観賞用に広く栽培されている。



当日配布資料【行程図】



## **仏徳山と周辺の地歴**

京都府宇治市にある小高い山で、宇治川の東岸に位置します。標高はおよそ 130 メートルほどと低山ながら、古来より信仰と自然の調和を感じられる場として知られています。山を覆う豊かな木々は四季折々に美しい景観を見せ、特に秋の紅葉は宇治の隠れた名所として人気です。また、山麓からは宇治川と宇治市街を一望でき、文学や歴史に彩られた宇治の風景を体感できます。観光だけでなく、静かな散策や参拝の場としても親しまれる仏徳山は、宇治の歴史・文化を象徴する存在です。

### **宇治上神社**（うじがみじんじゃ）

京都府宇治市にある神社で、世界文化遺産「古都京都の文化財」に登録されています。本殿は平安時代後期に建立された現存最古の神社建築として国宝に指定されており、三間社流造の三殿を一体化した独特の形式が特徴です。祭神は応神天皇、仁徳天皇、菟道稚郎子命（うじのわきいらつこのみこと）で、兄弟の皇位継承にまつわる伝承と深く関わります。境内には拝殿や清らかな湧水「桐原水」などがあり、古来より信仰と生活に根付いてきました。静かな森に包まれた社殿は、華美さを避けた簡素で荘厳な佇まいを今に伝え、日本の古代建築や信仰の姿を知る貴重な文化遺産となっています。

### **宇治神社**

宇治市にある古社で、菟道稚郎子命（うじのわきいらつこのみこと）を祭神とします。応神天皇の皇子である稚郎子は、兄・仁徳天皇に皇位を譲ったことで知られ、その忠義と聡明さから「学業成就」や「受験合格」のご利益があるとされます。境内は静かで、朱塗りの本殿や拝殿が緑に映え、隣接する世界遺産・宇治上神社とともに歴史ある景観を残しています。参道には「みかえり兔」と呼ばれる可愛らしい石像があり、参拝者を導く縁起物として人気です。

### **朝日焼**（あさひやき）

京都府宇治市に伝わる陶芸で、400 年以上の歴史を持つ伝統工芸です。豊臣秀吉が茶の湯を好んだ時代に発展し、宇治川の朝日山の麓で焼かれたことからその名がつけました。茶道との関わりが深く、千利休や小堀遠州にも愛されたといわれます。宇治の良質な陶土を用い、素朴で温かみのある風合いが特徴で、特に茶碗や花器として高く評価されています。現在も十五世朝日焼当主が伝統を守りつつ、新しい表現を取り入れています。

### **興聖寺**（こうしょうじ）

曹洞宗の名刹で、道元禅師が 1233 年に開いた日本初の曹洞宗寺院として知られます。道元は比叡山を離れ、中国での修行を経て帰国後、ここ宇治の地に寺を開きました。その後、永平寺創建に伴い一時荒廃しましたが、江戸時代に淀城主・永井尚政が再興し、現在に至ります。境内へ続く参道は「琴坂」と呼ばれ、秋には紅葉が美しく、琴の音に例えられる清流のせせらぎと相まって幽玄な景観を生み出します。本堂には釈迦如来像が安置され、禅の教えを今に伝える場となっています。興聖寺は歴史と自然美が調和した、宇治を代表する古刹。



## 仏徳山の植生

宇治市宇治川周辺は暖温帯の気候で、一般にはシイカシの照葉樹林帯の植生に属します。関西や西日本に多いコナラ、アカマツ林よりもツブラジイやアラカシを中心としたカシ類が優勢な植生となっています。古来より歴史的な景観場所として環境が保護されてきたために、シイカシの極相状態になっています。圧倒的に常緑広葉樹が多く、落葉広葉樹林が少ない景観です。

主な観察樹木（常緑樹） ツブラジイ、アラカシ、モッコク、ネズミモチ、ウバメガシ、クスノキ、シュロ、ソヨゴ、アカマツ、サザンカ、ヤブツバキ、ヒサカキ、サカキ、ヤマモモ、ヒノキ、カナメモチ、ナナミノキ、サンゴジュ、  
（落葉樹）クヌギ、ウメモドキ、イロハモミジ、コナラ、ニワウルシ、アカメガシワ、ハゼノキ、ヒメシャラ、ウワミズザクラ、ニガイチゴ、ヤマザクラ、ネジキ、リョウブ、カラスザンショウ、センダン、ムラサキシキブ、トウカエデ

### 樹木観察のポイント

- ①宇治市名木の指定木 … 宇治川沿いのクヌギとトウカエデ、宇治上神社のケヤキとツブラジイ
- ②赤い実をつけた樹木たち ナンテン、ウメモドキ、サンシュユ、ソヨゴ、ナナメノキ、カナメモチ、ガマズミ、サンゴジュ
- ③ドングリの実 … アラカシ、ウバメガシ、ツブラジイ、スダジイ、クヌギ、コナラ
- ④そっくりな木たち … ツブラジイとスダジイ、クヌギとアベマキ、ケヤキとムクノキとエノキ  
ナナミノキとクロガネモチ、ネズミモチとトウネズミモチ、シュロとトウジュロ



左、スダジイとツブラジイの実

右、上がケヤキの葉  
下はムクノキ



サンシュユ



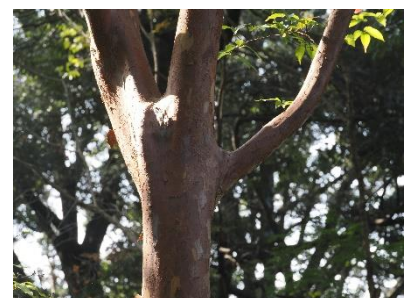
ウメモドキ



ナナメノキ



左、アベマキ  
右、クヌギ



- ⑤こんな場所にこんな木が？ … ヒメシャラ（右）